

乃至十萬ノ都市ニハ二等勞働紹介所、五萬以下ノ都市ニハ三等勞働紹介所ヲ設クルモノトス。而シテ全國ヲ十區ニ分チ、各區毎ニ地方勞働紹介所ヲ設ケテ區内ノ各紹介所ヲ統一シ、又倫敦ニ中央勞働紹介所ヲ設ケ各地方ノ紹介所ヲ統一スルモノトセリ。一等紹介所ノ數ハ三十乃至四十トシ、二等紹介所ハ四十五トシ、三等紹介所ハ約百五十トセリ。勞働紹介所ノ經費ハ毎年約十七萬磅ヲ要スベク、創設ノ費用ヲ加フルトキハ施行後十箇年間ハ毎年約二十萬磅ヲ要スルコトヲ明言セリ。勞働紹介所法制定ノ動機ハ一九〇五年組織セラレタル窮民救助法調査會ノ報告ニ基ケリ。顧フニ從來英國ニ於ル勞働紹介ノ中心ハ職工組合ニ在リ。然ルニ職工組合ノ經營ニ係ル勞働紹介ノ缺點ハ先ニ述ブル所ノ如ク、到底之ニ依ツテ勞働紹介ノ目的ヲ完全ニ遂行スルヲ得ザルナリ。議會ニ於テ此法案ノ討議ニ際シ、商務局長、チャーチルハ英國勞働紹介制度ノ缺點ヲ指摘シテ一ハ勞力ノ移動ヲ助成スル效果ノ薄弱ナルコト一ハ勞

働市場ニ於ル狀況ヲ公示スルノ方法ナキコトヲ述べ、政府事業タル勞働紹介ハ實ニ是等ノ弊害ヲ匡正スルニ於テ緊切ノ事タリト斷言セルヲ見テ以テ此事實ヲ明カニスルヲ得ベシ且又英國ニ於ル社會改良家ノ間ニハ、勞働紹介ノ改良ニ就キ、獨逸ニ於テ都市ノ經營ニ係ル勞働紹介ノ制度ヲ研究シ之ニ左袒セル者少ナカラザリキ。然レドモ此制度ニ伴フ缺陷モ亦一般ノ認ムル所タリ。即チ此制度ニ於テハ勞働紹介ニ關シ各地方ノ聯絡ヲ圖リ統一ノ措置ヲナスノ方法未ダ備ハラザルノミナラズ、勞働市場ノ狀況ヲ公表スルコトハ、全國ニ涉ツテ之ヲナスニ非レバ其利益少ナキニ拘ハラズ、各都市ノ勞働紹介所ガ獨立シテ之ヲナスハ之ヲ以テ完全ナル施設ト云フコトヲ得ズ。是等ノ缺陷ハ國立タル勞働紹介所ノ創設ニ依ツテ之ヲ補充スルヲ得ルモノタリ。是等ノ事情ニ基キ窮民救助調査會ハ勞働紹介ヲ以テ政府ノ事業トナスベキコトヲ主唱シ、終ニ此趣旨ニ基ケル法案ハ議會ニ提出セラレ、本法ノ制定ヲ見ルニ至レリ。

政府ノ勞働紹介所ノ創設ガ失業保險ノ計畫ト密接ノ關係ヲ有セルコトハ亦本法制定ノ主要ナル一理由タリ。窮民救助法調査會ハ其報告ニ於テ失業救済ノ手段トシテ、政府ノ勞働紹介所ノ創設ト與ニ失業保險ノ實行ヲ主唱シ而シテ此二者ハ相俟ツテ離ルベカラザルコトヲ説明セリ、蓋シ勞働紹介ハ勞力ニ關スル需要ト供給ノ連鎖タルト同時ニ業務ノ種類ニ基キ又地方ノ區別ニ依ル二者ノ鈞衡ヲ保タシムルヲ以テ主眼トセルモ、需要ト供給ノ實數ニ於テ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ非ラズ。此制度ノ實行奈何ニ完全ナルモ、失業者ヲ絶無ニ歸セシムルノ力ナキハ固ヨリ言ヲ俟タズ。去レバ失業者ノ救済トシテ、茲ニ失業保險ノ必要ヲ生ズルナリ、又翻ツテ失業保險ノ經營ニ就テ觀察センニ、失業者ニハ自動的ニ自己ノ意志ニ依ツテ此地位ニ陥リタル者ト、他動的ニ市場ノ景況等ノ爲ニ業ヲ失ヒタル者トノ區別アリ。而シテ救済金ヲ支拂フニ當リ之ヲ後者ニ制限スルハ至當ノ事タリ、然レドモ多數ノ被保人ニ就テ此區別ヲナスハ至難ノ

事タルヲ免レズ。今若シ勞働紹介所ト失業保險ノ聯絡密接ナランニハ、失業者ガ救済金ノ要求ヲナスニ際シ勞働紹介所ニ於テ善ク其失業ノ原因ヲ明ニスルト同時ニ、之ニ向ツテ適當ノ地位ヲ紹介シ已ムヲ得ザル場合ニ於テノミ救済金ノ支拂ヲナスコトヲ得ベク、是ノ如クシテ失業保險ノ基礎ハ鞏固トナリ其經營ハ容易ナルベシ。

此理由ニ依リ政府ハ勞働紹介所法案ヲ提出セルニ際シ、併セテ失業保險法案ヲ提出セリ、去レド後者ハ尙ホ調査ノ餘地アリトシテ之ヲ撤回シ只大體ノ計畫ヲ發表スルニ止メ、而シテ本法案ハ單獨ニ議會ノ協賛ヲ經ルニ至リタリ、獨逸ノ勞働紹介法ハ大體ニ於テ英國ニ則リタルモノナリ。茲ニ其要旨ヲ述ベシ。

(1) 勞働紹介所設置ノ爲ニ全國ヲ大小二種ノ地區ニ分チ、小區ハ數自治體ヲ聯合セル範圍ニ於テ之ヲ定メ、各地區ニ紹介所ヲ設ケ、直接ニ勞働者

ニ對シ紹介ノ事ニ當ラシメタリ。大區ハ小聯邦ニ於テハ之ヲ一地區トナシ。大聯邦ニ於テハ之ヲ若干ノ地區ニ分チ各々聯邦労働紹介所ヲ設ケ、小區ノ労働紹介所ニ對シ聯絡ヲ圖リ監督ヲ施コスノ任ニ當レリ。最高ノ機關トシテ帝國労働紹介所アリテ、全國ノ労働紹介所ヲ統一セリ。

(2) 労働紹介所ニ附屬シテ、労働者資本家ノ代表者ヲ以テ組織セル委員會ヲ設ケタリ。但シ聯邦労働紹介所及ビ帝國労働紹介所ノ委員會ニハ公共團體ノ代表者ヲ加フルモノトセリ。

(3) 小區労働紹介所ニ於テハ業務ノ種類ニ應ジ分科ヲ設クルコトヲ得

(4) 労働紹介ハ凡テ無料タルベシ。

(5) 労働紹介所ハ労働條件ニ關スル共同契約ニ背キタル條件ニ依リ紹介ヲナスコトヲ得ズ。

(6) 労働紹介所ハ適法ノ方法ニ依リ定メラレタル最低賃銀以下ニテ紹介ヲナスコトヲ得ズ。

(7) 同盟罷工又ハ同盟解雇ノ場合ニハ、労働紹介所ハ紹介ヲナス前ニ、此事實ヲ要求者ニ知ラシムルコトヲ要ス。

和蘭ノ制度ハ自治體ノ労働紹介所ヲ基礎トシ、其上ニ全國ヲ三十地區ニ分チ、各地區ニ地方労働紹介所ヲ設ケ、政府ニ中央労働紹介所アリ、之ガ統一ヲ圖レリ。其主眼ニ於テ英國ノ制度ト異ナルコトナシ。經費支辨ノ方法ニ就キ、自治體紹介所ノ經費ハ自治體ノ負擔トシ、地方紹介所ノ經費ハ國庫及ビ自治體ノ共同負擔トシ、中央紹介所ノ經費ハ國庫ノ負擔トセリ。

第二十三章 勞働者ノ住居

住居問題ノ性質

工業ノ發展ニ伴ツテ人口ハ都市ニ集中シ之ガ結果トシテ勞働問題ノ一種トシテ住居問題ナルモノ起レリ。是レ歐洲各國ニ於テ見ル所ノ普通ノ事實ナリ。顧フニ住居問題ハ之ヲ一般の住居問題ト特別の住居問題ニ分ツコトヲ得ベシ。前者ハ社會階級ノ奈何ニ拘ハラズ住居ノ關係ヨリ起ル問題ニシテ、後者ハ單ニ勞働者ノ住居ニ關スル問題タリ。余ガ茲ニ説明セントスルハ即チ此特別の住居問題ニ外ナラズ。

住居ニ要スル費用ガ勞働者ノ生計ニ重要ナル關係ヲ有セルコトハ、他ノ社會階級ト同日ニ論ズベキニ非ラズ。夫ノ「シュワール」法則ノ結果トシテ、收入ノ少ナキ者ハ收入ノ多キ者ニ比シ生計費ノ總額ニ於ル家賃ノ割合ハ累進的ニ増加スルコトハ爭フベカラザルノ事實タリ。各國勞働者ノ生計費ノ平均ヲ見ルニ、其支出ノ二割乃至三割ハ家賃ノ占ムル所タリ。而シテ

此家賃タル歳ヲ追フテ騰貴ノ傾向ヲ示シ、殊ニ歐洲大戰以後ニ於テハ此趨勢ハ滔々トシテ底止スル所ナキガ如シ。抑モ勞働者ノ賃銀ハ漸次騰貴ノ傾向アルコトハ各國ニ於テ均シク見ル所ナリ。然リ而シテ此傾向タル之ヲ生計費ト對照シテ同一ノ步調ヲ保ツコトヲ得ル場合ハ稀有ノ事タリ。一般ニ云ヘバ生計費ノ増加歩合ハ賃銀ノ騰貴歩合ノ上ニアリト云ハザルヲ得ズ。此事實タル種々ノ原因ニ基ケルモ家賃ノ騰貴ハ重要ナル關係ヲ有セルモノタリ。蓋シ勞働者ノ生計ニ就キ衣食ニ屬セルモノハ、一般物價ノ高低ニ伴ツテ變動セルモ、住居ノ費用ニ至ツテハ絶ヘズ騰貴ノ傾向ヲ有セルコトハ、各國ニ於テ爭フベカラザル事例タリ。去レバ勞働者ノ住居ニ關シ相當ノ畫策ヲ立テ、勞働者ノ生計費ヲ減少セシムルハ社會政策上實ニ必要ノ事ナリト云ハザルヲ得ズ。

家賃ノ騰貴ハ實ニ經濟上ノ問題タルノミナラズ、衛生上道義上ヨリ觀察シテ憂フベキ結果ヲ生ズルナリ。顧フニ家賃騰貴ノ結果トシテ、勞働者ハ

構造疎悪ニシテ極メテ不衛生ナル家屋ニ住居スルノミナラズ、家族ノ員數ト家屋ノ面積ノ間ニ適當ナル比例ヲ保ツコト能ハズ、多數ノ人ガ狹隘ナル住居ニ密集シ、之ヨリ生ズル所ノ衛生上道義上ノ弊害云フニ忍ビザルモノアルハ各國大都市ニ於テ常ニ見ル所ノ事實ナリ。

家賃騰貴ノ結果トシテ起ル所ノ弊害ハ種々アリ。先ツ其顯著ナルモノヲ舉ゲンニ、家屋ノ建築ニ關シ單獨の家屋ノ減少シテ雜居の家屋ノ増加スルコト是ナリ。抑モ勞働者ノ家屋カ單獨のナルヤ將タ雜居のナルヤハ主トシテ國民ノ氣風ニ依ツテ分ル、ナリ。英國ニ於テハ單獨の家屋多シ。大陸諸國ニ於テハ白耳義、和蘭等ヲ除キテハ概シテ雜居の家屋多シ。殊ニ獨逸ニテハ、フリードリッヒ大帝ノ政策トシテ頻リニ勤儉ノ風ヲ獎勵シ、其一端トシテ家屋ノ構造ニ就キ建築ノ費用ヲ省ク爲ニ雜居の家屋ヲ獎勵セルヲ以テ、今ニ至ルマデ此種ノ家屋多數ヲ占メタリト云フ。然リト雖モ各國ニ於テ從來雜居の家屋ハ大都市ニ於テノミ行ハレ小都市ニ於テハ單

獨の家屋多カリシガ近時雜居の家屋ガ頻リニ小都市ニ及ベルノ事實アリ。又從來大都市ニ於テモ郊外ノ家屋ハ主トシテ單獨の家屋ナリシモ、漸次郊外ト雖モ亦雜居の家屋ノ建設セラル、ノ傾向アリ。此雜居の家屋ニ就キ當初ハ三階四階ヲ以テ極度トナセシガ、次第ニ階數ヲ増加シ尙ホ進ンデハ地下ニ於テ更ラニ住居ヲ作り所謂穴居ノ人民ヲ出スコト、ナレリ。顧フニ雜居の家屋ハ單獨家の屋ニ比シ家賃ハ低廉ナルコトヲ得ベク經濟上ノ利益ハ争フベカラザル所ナルモ、道義上衛生上ヨリ觀察スルトキハ單獨の家屋ノ雜居の家屋ニ優ルコト固ヨリ言フ俟タズ。蓋シ家族ノ觀念土着ノ思想ハ雜居の家屋ニ於テ到底之ガ發達ヲ望ムベキニ非ラズ又雜居の家屋殊ニ地下ヤ高樓ノ上ニ在ル所ノ住民ガ奈何ニ衛生上危險ナル状態ニ在ルカハ誰カ之ヲ疑フ者アラン。

余ハ茲ニ各國家屋ニ關スル各種ノ統計ヲ掲ゲン。

歐洲各國ノ大都市ニ於テ戸數一ニ對スル人口ノ比例左ノ如シ。

獨逸

伯林	一九〇〇年	一九〇五年	一九一〇年
ミュンヘン	五〇、一	五〇、四	七五、九〇
ドレスラウ	二八、九	二三、三	三六、五九
ハムブルグ	四〇、七	三八、七	五一、九七
ライプツヒ	二三、三	三三、七	三八、六六
ドレスデン	二七、八	二七、六	二七、三九
マンハイム	二八、七	二七、七	三四、五六
フランクフルト	二二、一	二三、七	二二、二七
	一八、七	一八、八	一七、〇九

英國

倫敦	一九〇一年	一九一一年
マンチエスター	七、九三	七、八九
リヴァプール	四、九九	四、八六
バーミンガム	五五、五	五、五七
	四、八四	四、七八

其他諸國

セツフェールド	四、八〇	四、六五
ブリストル	五、六五	五、三〇
ウイエン	五〇、七四	
ブダペスト	四一、二八	
ブラーガ	四〇、九二	
巴里	三八、〇〇	
ストックホルム	三二、〇〇	
クリスタアナ	二九、二一	
コーペンハーゲン	二六、六〇	
トリエスト	一九、八九	
アムスターダム	一三、四四	
ブルユセル	八、五三	

(備考) 本表ハ一九〇五年乃至一九一〇年ノ統計ヲ蒐集セルモノナリ

巴里市ニ於テ室數ノ多少ニ依ル世帯數及住民數ノ分類左ノ如シ(一九〇一年調査)

室數	世帯數(百分比例)	住民數(同上)
一	二六、七	一六、六
二	三〇、一	二九、七
三	二一、八	二四、三
四	一〇、〇	一一、一
五以上	一、四	一七、三

「ブルュセル」市ニ於テ室數ノ多少ニ依ル世帯數ノ分類左ノ如シ(一九〇五年調査)

室數	世帯數(百分比例)
一	四八、五
二	四一、五
三	一〇、〇

伯林市ニ於ル人口總數ニ對スル地下住民ノ比例左ノ如シ。

一九〇一年	九、五
一九〇四年	九、四
一九〇七年	九、二

家賃騰貴ノ原因

「ハムブルグ」市ニ於テハ一九〇〇年ノ調査ニ依レバ地下住民ノ人口總數ニ對スル比例六、二ナリ

家賃騰貴ノ結果ハ右述ブル所ノ如シ。乞フ之ヨリ進ンデ之ガ原因ニ就キ講究スル所アラシ。

家賃ノ騰貴ニ就テハ家屋ニ關スル需要ト供給ノ二方面ヨリ觀察スルノ必要アリ。先ヅ需要ノ方面ヨリ説明センニ、余ハ先ニ工業組織ノ沿革ヲ述ブルニ當リ工業組織ニ集中ノ傾向アルコトヲ斷定シ、又工業ハ管ニ組織ノ上ニ此傾向アルノミナラズ更ラニ所在ニ關シ同一ノ傾向アルコトヲ論ジ、之ガ必然ノ結果トシテ人口ハ農村ヨリ都市ニ移動シ都市ニ於ル人口ノ増加ハ殆ンド底止スル所ヲ知ラザルノ勢アルコトヲ述ベタリ。近時

歐洲大都市ニ於テ家賃ノ騰貴ハ主トシテ是等都市ニ於ル人口増加ノ結果トシテ生ジタルモノニ外ナラズ。顧フニ是等都市ニ於ル人口増加ノ爲ニ住家ニ對スル需要ハ漸次増加スルニ拘ハラズ。住家ノ供給ハ之ニ伴ツテ増加セザルナリ。此需要ト供給ノ權衡宜シキヲ得ザルガ爲ニ自ラ家賃ノ騰貴ヲ來セルナリ。

今更ラニ進ンデ供給ノ方面ニ就テ觀察センニ、之ニハ種々ノ事實ヲ分解セザルベカラズ。住家其物ニ關スル事實ト宅地ニ關スル事實是ナリ。住家ノ供給ニ就キ家賃ノ騰貴ヲ來セル主要ナル原因ハ建築費用ノ増加トス。即チ住家ノ原料タル木材、石材等ノ價格ノ騰貴セルコト。及ビ建築労働者ノ賃銀ノ騰貴セルコト、ス。是等ノ事情ノ爲ニ建築ノ費用ハ次第ニ増加セリ。而シテ家屋ノ所有者ハ之ヲ補償スルノ必要。上家賃ヲ騰貴セシムルニ至ルハ亦已ムヲ得ザルコトナリ。且又建築ノ設計構造ガ次第ニ精巧トナリ奢侈ニ進ムハ一般ノ事例ニシテ労働者ノ住家ト雖モ自ラ此趨

勢ヲ有セルコトハ爭フベカラザル所ナリ。是等ノ事情ノ爲ニ建築ノ費用ハ自ラ増加シ終ニ家賃ヲ騰貴スルニ至ルナリ。加之ノミナラズ都市ニ於ル各種産業集中ノ結果トシテ住家以外ニ或ハ工場其他會社ノ事務所トシテ或ハ公共ノ造營物トシテ使用セラル、所ノ家屋ハ歲ヲ追フテ増加セリ。此種ノ家屋ガ増加スルニ從ツテ住家トシテ使用セラルベキ家屋ハ自ラ減少セザルヲ得ズ。即チ住家ノ供給ノ減少セル爲ニ家賃ノ騰貴ハ之ニ伴ツテ起ラザルヲ得ズ。

次ニ宅地ニ關スル事實ヲ按スルニ、宅地ノ地代ハ家賃ノ一要素ヲナスモノナリ。從ツテ地代ノ高低ハ家賃ノ高低ト密接ノ關係ヲ有スルコトヲ認めザルヲ得ズ。顧フニ都市ノ宅地ハ耕地ニ比スレバ制限的性質ヲ有セリ。其供給ヲ増加スルコト耕地ノ如クニ容易ナラズ。是レ他ナシ耕地ニ在ツテハ其地位ヨリハ寧ニ其地味ガ耕地タルノ要件ヲナセリ。其地味ガ一定ノ程度以下ナルトキハ耕地トシテ之ヲ利用スルコトヲ得ズ。而シテ此程

度以上ナル場合ニ於テ始メテ耕地タルノ資格ヲ得ルナリ。宅地ニ在ツテハ其地位ノ奈何シハ宅地ノ資格ヲ生ズル惟一ノ標準タリ。宅地ノ地位ハ概言スレバ其宅地ガ都市ノ中心ニ對スル距離ニ基キ、此距離遠キニ失スルトキハ宅地トシテノ資格ヲ失フニ至ルナリ。此理由ニ基キ都市ノ宅地ハ獨占ノ性質ヲ有セルコトヲ斷定スルハ強チ不當ノ事ニ非ルベシ。或ハ交通機關ノ發展ニ伴ツテ都市ノ地域ヲ郊外ニ擴張シ宅地ノ面積ヲ増加スルコトヲ得ンモ、之ニハ一定ノ限度アリ之ヲ超過スルコトヲ得ズ。加之ノミナラズ労働者ノ階級ニ在ツテハ労働ニ従事セル工場ト自己ノ住家トノ距離遠カルニ從ツテ、往復ニ要スル時間ノ損害少ナカラザルヲ以テ家賃ノ低下ナル郊外ヨリモ寧ロ家賃ノ高キ市内ヲ擇ム場合モ亦之ナシトセズ。都市ノ宅地ハ是ノ如ク制限的性質ヲ有セルモノタルニ拘ハラズ、産業集中ノ結果トシテ都市ノ宅地ニシテ工場、停車場、發電所等ノ設備ニ使用セラル、モノ次第ニ増加シ、從ツテ住家ニ供給セラルベキ宅地ノ面

積ハ之ニ伴ツテ減少セザルヲ得ズ、是等ノ原因ニ基キ宅地ノ供給ハ需要ニ伴ツテ之ヲ増加スルヲ得ズ、從ツテ地代ハ次第ニ騰貴スルニ至レリ。宅地ガ制限的性質ヲ有セル結果トシテ宅地ノ所有ハ一種ノ獨占事業トナリタリ。之ガ爲ニ宅地ハ往々投機ノ目的物トナリ種々ノ弊害ヲ生ズルノミナラズ、地主ハ借地人ニ對シ其獨占ノ地位ヲ濫用シテ不當ノ地代ヲ要求スルハ必然ノ勢ナリ。此場合ニ於テ借地人ガ其土地ニ就キ特別ノ必要ヲ有セルトキハ奈何ニ高價ナル地代モ之ヲ拂フニ躊躇セザルナリ。斯クテ地代ハ自然ノ事情ニ由ラズ寧ロ人爲ノ原因ノ爲ニ終ニ非常ノ騰貴ヲナスコトアリ。

住居問題解決ノ方法ニ就キ社會改良家ノ議ニ上リタルモノ種々アリ。家賃ノ騰貴ヲ防止スルノ方法トシテ需要ノ方面ヨリ立論シテ労働者ノ住居移轉ノ自由ヲ制限シ都市ニ於ル人口ノ集中ヲ阻止スルノ議ヲ立ル者アリ、ロッセル^ルノ如シ。或ハ工場ノ設置區域ニ制限ヲ加ヘ工場ノ所在ヲ都市

ヨリ附近ノ農村ニ移シ、工業所在ノ集中ヲ調節スルコトヲ主張スル者アリ。一部ノ社會主義者ハ此說ヲ主張セリ。或ハ供給ノ方面ヨリ立論シテ家賃ノ低廉ヲ圖ルノ方法トシテ都市ノ宅地公有ノ議ヲナス者アリ。ワグナ一等ノ如シ。余ハ茲ニ是等將來ノ畫策ニ就テハ之ニ論及セズ只現實ノ施設トシテ既ニ實行ノ緒ニ就ルモノニ關シテ之ヲ述ベシ。

法ニ家屋ノ供給
關スル方

第一 家屋ノ供給ニ關スル方法

此方法タル二種ニ分レタリ。一ハ貸家ヲ建築シ低廉ナル家賃ヲ以テ労働者ニ住家ヲ供給スルノ目的ニ出ルモノニシテ、一ハ労働者ヲシテ自己ノ住家ヲ所有セシムルヲ以テ目的トセルモノトス。此二種ノ方法ヲ實行スルニ就キ之ヲ經營スル所ノ主體ニ依ツテ分類叙述セン。

(1) 労働者ノ組合。此方法タル労働者ガ特ニ住家ニ關スル組合ヲ設ケ定期ニ定額ノ出金ヲナシ、之ヲ資本トシ、組合ノ事業トシテ家屋ノ買入若シクハ建築ヲナシ、而シテ是等ノ家屋ニ就テ或ハ低廉ナル家賃ヲ以テ組

合員ニ貸付ケ或ハ原價ニテ之ヲ組合員ニ賣渡スモノトス。米國ニ於ル建築及金融組合 (building and loan association) 獨逸ニ於ル建築及貯金組合 (Bau und spar Kass'n) 及ビ各國ニ行ハル、産業組合ノ一種タル建築組合ハ此種類ニ屬セリ。是等ノ組合ガ貸家ノ業ヲ營ム場合ニハ其方法ハ簡單ナリト雖モ、家屋ヲ組合員ニ賣渡ス場合ニハ復雜ナル手續ヲ履ムモノトス。今米國ニ行ハル、實例ヲ述ベシニ、組合ハ組合員ヲシテ競争入札ヲナサシメ、最高價ノ入札ヲナシタル者ガ之ヲ買取ルノ權利ヲ有ス、代價ノ支拂ニ就テハ一時ニ之ヲ支拂フハ労働者ノナス能ハザルコトナルヲ以テ年賦ノ方法ニ依ツテ支拂ヲナサシムルナリ、只當初ニ年賦以外ニ代價ノ一割内外ノ一時金ノ納付ヲナスヲ要ス。斯クテ所有權ノ移轉ヲナスモ年賦ノ期間内ハ組合ハ其賣渡タル家屋ヲ以テ未納代價ノ擔保トナセリ。又組合員ガ年賦ヲ完了セズシテ死亡スル場合ヲ豫想シ、生命保險ノ契約ヲナサシメ、其保險金ニ依ツテ未納代價ノ填補ヲナスコト、セリ。

此種ノ組合ニシテ組合員ガ家屋ヲ建築或ハ買入ヲナサントスル場合ニ相當ノ貸附金ヲナスコトアリ。此事タル米國ニ於テ盛ンニ行ハレタリ。労働者ノ組合ヲシテ是等ノ業ヲ營マシムルコトハ社會改良上稱揚スベキコトタルヤ固ヨリ言フ俟タサル所ナルモ、是ノ如キ組合ヲ組織スルハ高等労働者ヲ俟ツテ始メテ行ハルベク、一般労働者ハ到底之ヲ經營スルコト能ハズ、從ツテ此方法ノ恩澤ハ普ネク一般ニ及ボスコトヲ得ザルノ不便アリ。又此組合ニシテ貸家ノ業ヲ營ミ低廉ナル家賃ノ家屋ヲ供給スル場合ニハ何等ノ弊害ナキモ、家屋ノ賣買ヲナス場合ニ在ツテハ組合其物ガ往々投機事業ヲ營ムノ弊害ニ陥ルコトアリ。加之ノミナラズ買受人タル労働者ニ對シ組合ガ嚴重ナル監督ヲ施スニ非レバ、労働者ハ永久ニ之ヲ保持スル能ハズ他ニ之ヲ轉賣スルコトナシトセズ、或ハ利益ヲ得ル爲ニ之ヲ轉賣シ一種ノ投機ニ陥ルコトモ亦之アルヲ免レズ。

(2) 資本家ノ施設。特定ノ資本家ガ自己ノ傭使スル労働者ノ爲ニ或ハ

貸家ヲ造リテ低廉ナル家賃ヲ以テ之ニ住居セシムル場合アリ或ハ家屋ヲ建築シテ年賦拂ノ方法ニテ之ヲ賣拂フアリ。又必要ニ應ジ労働者ニ建築ノ資金ヲ貸附クルコトモアリ。是等ノ實例ハ各國ニ於テ其數少ナシトセズ。就中最モ顯ハル、モノヲ獨逸、クルップ工場トナス。

該工場ニテハ労働者ノ爲ニ數多ノ貸家ヲ建築セリ。一八九一年ニハ貸家ノ總數三、六五九ニシテ、之ニ住居セル労働者ノ總數、約二萬五千人ナリ。而シテ之ニ放下セル資本額ハ一千二百萬麻ニ達セリ。一九一二年ニハ貸家ノ總數九、七〇〇ニシテ住居者ノ總數約四萬二千人ナリト云フ。

該工場ハ又労働者ヲシテ自家ノ所有者タラシムルノ目的ヲ以テ特別ノ資金ヲ積立テ之ヲ労働者ニ貸附スルコト、セリ。一八八九年ニ先ヅ五十萬麻ノ資金ヲ供出シ労働者ニ對シテ建築ニ要スル資金ノ貸附ヲナセリ。此貸附ノ條件トシテハ労働者ハ既婚者タルコト、一ケ年ノ所得三千麻以下タルコト、三ケ年以上非行ナク勤績スルコト、兵役ノ義務ヲ終了セルコ

ト、及ビ一時ニ建築ノ爲ニ三百麻以上ノ資金ヲ自ラ供出スルコト等トス。貸附ノ利率ハ年三步トス。償還期間ハ二十五年以内トシ年賦金ハ元利ヲ合算シテ毎年均一ノ額トセリ。貸附ノ擔保ハ其ノ買入レタル家屋土地ヲ以テ之ニ充ツルモノトス。此以後漸次資金ヲ増加シ多數ノ労働者ハ之ニ依ツテ自家ノ所有者トナレリト云フ。

資本案ノ施設トシテ労働者ニ貸家ノ供給ヲナスコト及ビ自家ノ所有者タラシムルコトハ慈惠的方針ニ依ル社會政策トシテ稱揚スベキ價值アルハ固ヨリ疑ヲ容レザル所ナリ。然リト雖モ資本案ガ労働者ヲ保護スルノ精神ニ基キテ是等ノ施設ヲナスニ非ラズ、労働者ニ對シテ壓迫ヲ加ヘ制御ヲ容易ナラシムルノ手段トシテ之ヲナスコト往々之ナシトセズ。此場合ニ於テハ労働者モ亦此束縛ヲ免ル、爲ニ成ルベク之ヲ避クルノ傾向アルヲ免レズ。此事タル資本案ノ慈惠施設トシテ住家ノ供給ヲナスニ當リ深ク注意スベキコト、又労働者ヲシテ自家ノ所有者タラシムル

ニ就テハ労働者ヲシテ永久ニ其家屋ヲ所有セシムル爲ニ、容易ニ之ヲ轉賣スルコトナク、又之ニ依ツテ投機ヲ圖ルノ弊ヲ矯正スルノ必要アルコトハ労働者ノ組合ノ經營ニ係ル場合ト其趣ヲ異ニセズ。

(3) 慈惠團體ノ事業。慈惠團體ノ事業トシテ労働者ノ爲ニ貸家ヲ建築シ或ハ自家ヲ所有セシムルノ方法ヲ設クルコトハ各國ニ於テ近時盛ンニ行ハレタリ。此種ノ施設ニ就テハ労働者ノ組合ニ於ルガ如クニ資金ノ不足ヲ感ズルコトナク、又資本案ノ事業ニ於ルガ如クニ労働者ガ之ニ依ツテ束縛ヲ受ケ壓迫ヲ加ヘラル、ノ弊害ナキヲ得ルナリ。シムラー¹ノ如キハ此方法ヲ以テ住居問題ノ解決ニ最モ適切ナルモノト認メ頻リニ之ヲ鼓吹セリ。

此種ノ事業ニ就テハ佛國ノ新領土ミュールハウゼン²市ニ在ル所ノモノ之ガ嚆矢タリ。一八五三年該市ノ工業者聯合シテ一團體ヲ組織シ株式會社ノ形式ニ依リ三十五萬法ノ資金ヲ以テ業ヲ創メタリ。當初ハ政府ノ補助

金ヲ得タリキ。此團體ガ一八九七年マデニ建築セル家屋ノ數ハ一、二四三ニシテ其價格合計ハ三百四十四萬麻ナリ。是等ノ家屋ハ總テ勞働者ニ賣渡タリ。

(4) 都市ノ事業。都市ノ事業トシテ都市ガ其ノ備使セル勞働者ノ爲ニ貸家ヲ設クルコトハ其例少ナシトセズ。獨逸ニテハ「フランクフルト」市英國ニテハ「バーミングハム」市ノ如キ其模範ヲ示セルモノト云フベシ。此場合ニ於テ都市ガ經營スル貸家ノ事業ハ先ニ述ブル所ノ資本家ノ施設ト同一ノ性質ヲ有セルナリ。然レドモ都市ノ行政事項ノ一トシテ貸家ノ建築ヲナス場合ハ之ト其趣ヲ異ニシ、之ニ住居セシムベキ勞働者ハ都市ノ事業ニ備使セルト否トニ拘ラズ總テノ勞働者ヲシテ此恩澤ニ浴セシムルモノトス。此事業ノ來歴ヲ按ズルニ、歐洲大都市ニ於テハ從來市内ニ存在セル細民ノ住家ハ極メテ不完全ニシテ且ツ不潔ナルヲ以テ公共衛生ノ爲ニ之ヲ一掃シ去ルノ必要アリ。而シテ只之ヲ除去スルノミニテ之ニ

代ルベキ住家ヲ建設セザルトキハ細民ノ不幸甚シキモノアルヲ以テ、此除去セラレタル地域ニ於テ公共ノ費用ヲ以テ勞働者ノ住居トシテ適當ナル貸家ヲ建築スルノ必要ヲ生ジタリ。此理由ニ基キテ社會改良策ニ注意セル所ニ在ツテハ市業トシテ貸家ノ建築ヲナスモノ起レリ。

歐洲大戰以後住居ノ欠乏ハ著シク勞働者ノ生活ヲ脅威セルニ際シ、各國政府ハ相競フテ之ガ救済ニ努力シ、殊ニ自治體ノ事業ヲ中心トシテ種々ノ畫策ヲナセリ。英國ニ於テハ一九一九年住居及都市計畫法ヲ制定シ住居ノ供給ヲ自治體ニ強制スルト同時ニ此目的ノ爲ニ特別地方稅ヲ起シ地方債發行ノ途ヲ開キ、又必要ニ應シ國庫補助及ビ政府貸附金ノ方法ヲ設ケタリ。

都市ノ事業トシテ勞働者ノ家屋ヲ建築スルニハ貸家トシテ低廉ナル家賃ヲ以テ住居セシムルノ目的ニ出ルモノ多シ、勞働者ヲシテ自家ノ所有者タラシムルノ目的ニ出ルモノハ稀ニ之ヲ見ルノミ。後者ノ必要ノ爲ニ

ハ都市ハ主トシテ家屋ノ建築ヲナサントスル私人若シクハ團體ニ向ツテ資金ノ貸附ヲナシ或ハ其所有ニ係ル土地ノ拂下貸下ヲ行フコトアリ。夫ノ英國一八九九年細民家屋收得法 (small dwelling acquisition act) ハ此目的ノ爲ニ制定セラレタルノナリ。此法律ノ要旨ヲ按ズルニ貸附金ハ家屋價格ノ五分ノ四以内トシ而シテ四百磅ヲ超過スルコトヲ得ズ、償還期限ハ三十年以内トス、利率ハ公共事業公債局ノ貸附利率ヲ超過スルヲ得ズ償還方法ハ主トシテ年賦金ノ方法ニ依レリ。

住居問題ノ解決殊ニ家屋ノ供給ニ關スル施設ノ種類ハ右述ブル所ノ如シ。此外各國ノ政府ガ労働者ノ爲ニ貸家又ハ自家ノ建築ヲナサントスル私人、慈善團體及ビ自治體ニ向ツテ資金ノ供給ヲナスノ實例多シ。其ノ最モ顯著ナルハ白耳義トス。一八八九年法律ニ依リ、貯金局ヲシテ其ノ保管セル貯金ヲ此目的ニ運用セシメタリ。此資金ノ貸附ニ就テハ直接ニ労働者ニ對シテ之ヲナスニ非ラズ、必ラズ信用アル中介者ノ手ヲ經ルモノト

ス。此中介者タルモノハ主トシテ組合若シクハ會社トシ、個人ナル場合ハ甚ダ少ナシ、或ハ産業組合アリ或ハ建築會社アリ、或ハ建築資金貸附會社アリ、其種類固ヨリ多シ。貯金局ガ貸附ヲナスニ就テハ其資金ノ使用者ハ皆ニ労働者ニ限ラズ其他ノ階級ノ者モ亦此利益ヲ享受スルコトヲ得ルモノトス。

英國ニテハ一八九〇年職工住居法 (Housing of the working classes act) ニ依リ公共事業公債局ノ資金ヲ自治體若シクハ組合、私人ニ貸附ルノ方法ヲ設ケ自治體ニ對シテハ五十年、組合、私人ニ對シテハ四十年ノ期限ヲ以テ低利資金ノ貸附ヲナセリ。

先ニ述ブル所ノ一九一九年住居及都市計畫法ニ於テ、更ラニ之ヲ擴張シ皆ニ貸附金ノ豫算ニ就キ著シキ増加ヲナセルノミナラズ、補助金交付ノ範圍及ビ方法ニ就キ幾多ノ改良ヲ加ヘタリ。

佛國ニテハ一九〇六年法律ニ依リ、政府ハ労働者ノ爲ニ住家ノ建築ヲナ

ス所ノ會社及ビ組合ニ對シ、資金ノ貸附ヲナスコト、セリ。此場合ニ於テ會社及ビ組合ハ四歩以上ノ配當ヲナスコトヲ得ザルモノトス、且又此法律ニ依リ定額以下ノ家賃ノ貸家ニ就キ、其家屋ガ一定ノ衛生設備ヲ具備スルコトヲ條件トシテ、建築後十二ケ年ヲ限り家屋ニ關スル租稅ヲ免除セリ。

第二 宅地ノ供給ニ關スル方法

宅地ニ關スル方法ノ首要ナルモノハ宅地ノ投機的賣買ヲ防止スルニ在リ。宅地ガ獨占的性質ヲ有セル結果トシテ地代ノ騰貴ハ必然ノ趨勢タルノミナラズ、之ガ爲ニ投機賣買ノ弊害ヲ馴致スルニ至ルコトハ先ニ述ブル所ノ如シ。此宅地ノ投機ハ更ラニ地代騰貴ノ主要ナル原因タリ。顧フニ投機的賣買ノ價格ハ事實ノ地代ニ基キテ計算セラレタルモノニ非ラズ從ツテ不相當ナル高價トナルヲ免レズ、而シテ之ヲ貸附ルニ當ツテ地主ハ此不相當ナル價格ニ基キテ地代ヲ割出ス爲ニ地代ノ騰貴ハ非

宅地ノ供給
ニ關スル方法

常ナル程度ニ上ルコト亦往々之アリトス。抑モ地價ト地代ノ關係ニ就キ地代ノ高低ニ伴ツテ地價ノ高低ヲ生ズルハ必然ノ事タリ。此場合ニ於テ地代ハ地價ノ利子ト認メラレ、地代ヲ資本ニ換算セル金額ハ即チ地價トナリテ現ハル、モノナリ。地代ハ原因ニシテ地價ハ結果タリ。此原因結果ノ關係ニ依リテ起ル所ノ經濟現象ハ之ヲ奈何トモスベキニ非ラズ。然レトモ地價ノ高低ニ伴ツテ地代ノ高低ヲ來タス事實アリ。此場合ニハ地價ノ高低ハ原因ニシテ地代ノ高低ハ之ガ結果タルナリ。土地ガ投機ノ目的物タル場合ニ此事實ハ最モ顯著ナリトス。

且又宅地ノ投機ハ漸次大規模ノ計畫ニ依ツテ行ハル、ノ趨勢アルコトハ各國ニ於テ均シク見ル所ナリ。從ツテ土地ノ兼併ハ之ニ伴ツテ起リ、少數ノ地主ガ廣大ナル面積ノ宅地ヲ所有スルコト、ナリ。宅地ノ獨占的性質ハ益々發揮セラレ、之ガ爲ニ地代ガ豫期セザル騰貴ヲナスニ至レリ。加之ノミナラズ宅地ノ投機ハ大都市ノ内部ヨリハ寧ロ郊外ニ於テ行ハル

ハ一般ノ事例タリ。郊外ノ土地ガ一旦投機者ノ手ニ落ルトキハ、彼等ハ將來地價ノ騰貴ヲ豫想シ、之ヲ建築ニ利用スルコトナク、空地ノマ、ニテ存積スル場合往々之アリ。是ノ如クシテ宅地ノ供給ハ投機賣買ノ爲ニ制限セラレ延イテ地代ノ騰貴ヲ生ズルヲ免レズ。

歐洲各國ノ大都市ニ於テ宅地ノ投機ハ到ル所之ヲ見ザルナシ、殊ニ獨逸ハ之ガ標本ヲ示セルモノタリ。去レバ獨逸ノ學界ニ於テハ之ニ關スル研究ハ最も深刻ニシテ、「エバースタット」ヲ始メトシ幾多ノ學者ハ宅地ノ投機ハ地代騰貴ノ主要ナル原因ナルコトヲ斷定セリ。要スルニ宅地ノ投機ハ住居問題ト密接ノ關係ヲ有シ、社會政策上忽諸ニ附スベカラザルコトタリ。此弊害ヲ匡正スル爲ニ種々ノ法制ハ各國ニ行ハレタリ。茲ニ其主要ナルモノヲ擧ゲン。

(1) 土地賣買ニ關スル登録税ノ重課。此方法タル自耳義ニ於テ行ハル、モノニシテ其效力ハ顯著ナルモノアリト云フ「ブランド」ノ説ニ依レバ該國ニ於テ宅地ノ投機少ナク地價ノ暴騰モ亦他國ノ如ク甚シカラザルハ主トシテ此登録税法ノ結果ナリト云ヘリ。然レドモ此方法ニ依ルトキハ土地ノ投機的賣買ノ弊害ハ之ヲ防止スルコトヲ得ルモ、正當ナル賣買ニ對シテ亦過重ノ負擔ヲナサシムルノ憂ナシトセズ、奈何トナレバ土地ノ賣買ニ就キ投機ノ目的ニ出ルモノト然ラザルモノトノ區別ヲナスコトハ容易ノ業ニ非ザレバナリ。

(2) 地租課税方法ノ改正。普魯西ニテハ從來地方税制ニ於テ自治體ガ土地ニ課税ヲナス場合ニハ土地ノ收益ヲ以テ課税ノ標準トナシタリ。去レバ建築ナキ土地ハ何等ノ收益ヲ生ゼザルノ理由ニ依リ課税ヲ免除セラレタリ。一八九三年內務大臣「ミケール」ノ地方税制ノ改正ハ主トシテ此點ニ向ツテ斧鉞ヲ加ヘタリ、即チ自治體ガ土地ニ課税スル場合ニハ土地ノ價格ヲ以テ課税標準トナシ其收益ノ奈何ヲ問ハザルコト、セリ。從ツテ建築ナキ土地ハ毫モ收益ヲ生ゼザルニ拘ハラズ、建築アル土地ト同一

ノ負擔ヲナスコト、ナレリ。此改正ノ結果トシテ將來地價ノ騰貴ヲ見込テ土地ノ買入ヲナシ、毫モ之ヲ建築ニ利用セズ空地トシテ保存スル所ノ投機的地主ヲ減少セリ。

(3) 宅地ノ公用徵收。「バーデン」ニ於テ建築ナキ土地ニ就キ住家ノ需用増加シタルニ拘ハラズ、地主ハ之ニ建築ヲナサズ、又貸付ノ要求ヲ拒絕スルトキハ、公益ノ理由ニ基キ公用徵收法ヲ適用スルコトヲ得ルノ法律ヲ制定セリ。普魯西ニ於テモ亦此問題ハ頻リニ社會改良家ノ間ニ研究セラレタルモ未タ法律ノ制定ヲ見ズ、只「フランクフルト」市ニ於テ市條例ニ依ツテ之ヲ實行セリ。

(4) 土地増價稅。土地増價稅ハ交通稅ノ一種ニシテ過去ノ賣買價格ト現在ノ賣買價格トヲ比較シ其ノ増加セル部分ニ對シ課稅スルモノトス。徵收ノ方法ハ賣買ノ際ニ之ヲ賦課シ普通ノ登録稅ト其趣ヲ一ニセリ。此稅目ハ獨逸ノ新領土タル膠州灣ニ施行シタルモノヲ嚆矢トシ、漸次獨逸

ノ本國ニ及ビ大都市ニ於テ市稅トシテ之ヲ採用セルモノ甚タ多シ。一九一一年之ヲ帝國ノ租稅ニ採用セリ英國ニハ一九〇五年之ヲ國稅トシテ實施シタリ。

此稅目タル財政上ヨリ觀察シテ至當ナル租稅タルノミナラズ、宅地ニ關スル政策トシテ必要ナルモノタリ。凡ソ財產ノ收得ニ就キ何等ノ勞力ヲ施サズ毫末ノ出費ヲ要セズ只社會的經濟的外部ノ事情ニ依ルモノ、即チ偶然ノ收得ハ課稅公平ノ原則ニ照ラシ逸スベカラザル好個ノ財源タルコトハ財政學上議論ノ餘地ナキナリ。此理由ニ基キ財政學者ハ夙ニ土地増價稅ノ必要ヲ唱道セリ。更ラニ宅地ニ關スル政策トシテ此租稅ノ性質ヲ按スルニ、近時都市ノ宅地ガ徒ラニ投機ノ目的物トナリ延イテ地代ガ不自然ナル騰貴ヲナスノ事實ハ掩フベカラザルコトタリ。此弊害ヲ矯正セント欲セバ土地ノ賣買ニ關シ重稅ヲ課スルニ在リ。然レドモ只土地賣買ノ課稅ヲ重クスルトキハ正當ナル目的ヲ有セル賣買ニ對シテ重キ負

擔ヲナサシムルノ憂アルハ先ニ述べタル白耳義ノ實例ニ依ツテ之ヲ推知スルコトヲ得ベシ。今若シ土地増價税ノ方法ニ依ツテ増加價格ニ對シテノミ課税スルコト、セバ主トシテ投機的賣買ニ課税スルコトヲ得ベク立法ノ目的ヲ達スルコト容易ナルベシ。獨逸政府ガ膠州灣ニ於テ始メテ此税目ヲ採用シタル所以ハ財政上ノ理由ヨリハ寧ロ宅地ニ關スル政策ノ理由其重キニ居レリト云フ。蓋シ新領土ナルモノハ土地ニ關スル投機的賣買ノ最モ盛ンニ行ハル、モノナレバナリ。今土地増價税ノ内容ニ就キ其主眼タルモノヲ舉ケン。

土地ノ種類ニ依ツテ税率ヲ異ニスルコト、即チ建築アル土地ト建築ナキ土地トヲ區別シ。前者ニ對シテハ税率ヲ低クシ、後者ニ對シテハ之ヲ高クスルモノトス。是レ土地ノ利用ヲ獎勵スルト同時ニ投機ノ賣買ヲ防止スルノ必要ニ基クナリ。

税率ヲ定ムルニ當リ凡テ累進税法ニ依リ先ツ増加價格ノ歩合ニ依リ税

率ノ高低ヲ定ムルモノトス。即チ増價ノ歩合高キトキハ高率ノ課税ヲナシ然ラザル場合ニハ低率ノ課税ヲナスコト是ナリ。又増加價格ヲ生シタル期間、換言スレバ賣主ノ所有セル期間ノ長短ニ依リ税率ヲ異ニセリ、即チ長キ期間ニ於ル増加價格ハ短カキ期間ニ於ル増加價格ニ比シ増加ノ歩合ニ於テ同一ナリトセバ其税率ヲ低クスルコト是ナリ。

課税スベキ増加價格ノ最低度ヲ定メ一定ノ歩合以上ノ増加價格ニ對シテ課税ヲナシ此程度以下ノ場合ニハ課税ノ免除ヲナスモノトス。是レ課税ノ煩累ヲ避クルノ趣意ニ基ケルナリ。

第二十四章 勞働者ト産業組合

余ハ第八章ニ於テ小工業ト産業組合ノ關係ヲ論ジ産業組合ガ小工業者ノ生存發達ヲ助成スルノカアルコトヲ述ベタリ。抑モ産業組合ノ利益ヲ享クル者ハ管ニ小工業者ニ止ラズ、組合ノ種類ニ依ツテハ勞働者ト雖モ尙ホ之ヲ利用スルコトヲ得ベシ。歐洲各國ニ於テ勞働者ノ間ニ行ハレタル所ノ産業組合ノ種類固ヨリ多キモ、其主要ナルモノヲ舉グレバ消費組合及ビ生産組合ノ二者トナス。余ハ茲ニ是等ノ組合ニ就キ叙述スル所アラシ。

消費組合ノ性質

第一 消費組合

消費組合トハ組合員ノ消費スル所ノ生活必需品ヲ共同購入シテ之ヲ組合員ニ販賣スルヲ以テ其業務トナセル組合ナリ。顧フニ消費組合ガ購買組合ト異ナル所ハ其ノ取扱フ所ノ物品ノ種類ニ在リ。我國産業組合法ニ

於テハ此區別ヲナサズ二者與ニ購買組合ト稱セルモ、余ハ茲ニ歐洲各國ノ立法ノ慣例ト學者ノ定説ニ基キ二者ノ區別ヲナセルコトハ先ニ述ブレル所ノ如シ。

消費組合ハ經營ノ方法ニ依リ更ラニ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得ベシ。此區別タル組合員ニ物品ノ賣捌ヲナスニ當リ其價格ヲ定ムル方法ノ異ナルニ依ツテ起ルモノトス。即チ一ハ組合ガ購入シタル原價ニ加フルニ只組合ノ經營ニ必要ナル費用ノミヲ以テシ毫モ小賣ノ利益ヲ合算スルコトナクシテ販賣價格ヲ定メ、組合員ニ對シ一般小賣ノ市價ニ比シ幾分カ低廉ナル價格ヲ以テ物品ヲ賣捌クヲ以テ目的トセルモノナリ。一ハ組合ガ組合員ニ要求スル價格ハ普通ノ市價ト同一ニシテ組合員ハ組合ヨリ購買スルモ小賣商ヨリ購買スルモ價格ニ等差ナシ、然レドモ組合ハ生産者又ハ卸商ニ就キ原價又ハ卸相場ヲ以テ物品ヲ購入シ小賣相場ヲ以テ之ヲ賣捌クヲ以テ、之ヨリ生ズル小賣ノ利益ヲ購買額ニ應ジテ組合員ニ分

配シ而シテ各組合員ノ貯金トシテ組合ニ之ヲ保管スルモノトス。第一方法ハ組合員ノ生活ノ費用ヲ節約シ從ツテ組合員ヲシテ貯蓄ヲナスノ餘裕ヲ有セシメ而シテ此餘裕ニ就キ貯蓄ヲ生ズルヤ否ヤハ組合員ノ意思ニ一任スルモノトス。第二方法ハ組合員ノ生活ノ費用ヲ減少スルコトナク而シテ組合員ニ代ツテ組合自身ガ貯蓄ヲ行フモノトス。方今歐洲各國ニ於テ盛ンニ行ハル、所ノ消費組合ハ概ネ第二方法ヲ採リ第一方法ニ依ルモノハ甚ダ少ナシ。去レバ余ハ茲ニ第二方法ニ依レル消費組合ニ就テ説明セント欲ス。

消費組合ハ職工組合ト均シク英國ヲ以テ其誕生地トナス。其濫觴ハ一八四四年「ロッチデール」市毛布職工ノ創立セルモノニ在リ。ロッチデールハ「マンチエスタ」附近ノ一小都市ナリ。十九世紀ノ中葉ノ頃此地方ノ毛布工業ハ非常ノ悲境ニ沈淪シ失業労働者ハ其數ヲ知ラズ。工場ニ留ル者ト雖モ賃銀ハ非常ニ低落シテ生計ノ困難名狀スベカラザルモノアリ。激烈

ナル同盟罷工ハ相踵イデ起リ、政府ハ終ニ兵力ニ依ツテ之ヲ鎮定セルコト屢々之アリキ。當時救済ノ方法ニ就キ労働者ハ屢々集會ヲ開キ種々ノ計畫ヲ立テタリキ。偶々該市ニ於テ社會黨ノ一派タル「チャーチスト」黨ノ會合アリケルガ「ホワース」ナル一労働者ハ起テ消費組合ノ計畫ヲ演述セリ。然ルニ大聲ハ俚耳ニ入ラズ此巧妙ナル考案モ多數ノ賛同ヲ得ル能ハズシテ已ミタリキ。若干モナクシテ「ホワース」ハ二三ノ同志者ト與ニ該地方ノ労働者ヲ歴訪シ之ニ參加スルコトヲ勸誘シ、漸ク二十八名ノ賛成者ヲ得テ、各々一磅ノ出金ヲナシ消費組合ヲ組織セリ。嗟此二十八名ノ組合員、二十八磅ノ資金ヲ以テ創立セラレタル組合ハ僅ニ七十餘年ヲ經過シタル今日ニ在ツテハ既ニ英國ハ勿論、大陸諸國ニモ普及セリ。此創立者タル二十八名ノ労働者ガ所謂消費組合ノ祖先トシテ其名聲ノ不朽ニ傳ハルモノ豈偶然ナランヤ。

「ロッチデール」組合ハ斯ノ如クシテ設立セラレタリ。業ヲ開クニ及ンデ其效

績ハ次第ニ世間ノ認ムル所トナリ、數年ノ後ニハ組合員ノ數六百ニ達セリ。是ヨリ後各地方ニ於テ之ニ則レル組合ノ設立ハ歲ヲ追フテ増加セリ。一八六二年議會報告ニ依レバ組合ノ總數四百五十ニシテ組合員ノ總數九萬人ニ上レリ。一八六四年英蘭各地方ノ組合ハ互ニ聯合シテ「マンチエスタ」市ニ中央消費組合ヲ設ケ、一八六八年蘇格蘭各地方ノ組合ハ「グラスゴー」市ニ同一ノ設備ヲナセリ。是等中央消費組合ノ目的ハ各地方ノ組合ガ販賣スル所ノ物品ヲ共同ニ購入シ之ヲ配附スルニ在リ。此聯合機關ノ組織ハ更ラニ消費組合ノ發達ニ一大刺撃ヲ與ヘタルコト固ヨリ疑ヲ容レズ。此以後地方組合ノ進歩ハ實ニ駭々乎トシテ禦グベカラザルモノアリ。終ニ現今ノ盛運ヲ見ルニ至レリ。

消費組合ノ
組織及ビ事
業

余ハ是ヨリ主トシテ英國ノ實例ニ基キ消費組合ノ組織及ビ事業ニ就キ述ブル所アルベシ。

消費組合ハ同一ノ地域ニ住居セル各種労働者ヲ以テ組織シ、職工組合ノ

如ク同業ノ關係ヲ以テ其組織ノ標準トナセルモノニ非ラズ。去レド大工場ニ在テハ該工場ノ労働者ノミヲ以テ組織セラレタルモノ往々之アリ。又佛國ニ於テハ職工組合ニ附屬セル消費組合ノ實例少ナシトセス。

消費組合ハ組合員ノ間ニ物品ヲ賣捌クヲ主トセルモ、組合ニ依テハ組合員ニ非ザル者ニ對シ亦物品ノ販賣ヲナセルモノアリ。此場合ニ於テハ小賣ノ利益ハ購買者ニ歸セスシテ組合ノ手ニ落ち、從ツテ組合員ノ間ニ配當セララル、モノトス。大陸諸國ニ於テ獨逸ヲ除ク外ハ概シテ此方針ニ依レリ。

消費組合ノ賣捌ク所ノ物品ハ、飲食物、被服類、家具、雜貨品等總テ生活必需品トス。奢侈品ニ至ツテハ労働者ノ之ニ對スル需要少ナキノミナラズ、需要者ノ嗜好ニ就キ著シキ等差アリ。加之ノミナラズ之ガ購入ヲナスニハ鉅額ノ資本ヲ要シ到底組合ノ事業タルニ適セザルヲ以テ之ヲ取扱ハザル組合多シ。佛國ニ於テハ組合ノ多數ハ麵麩及ビ其他ノ飲食物ノ販賣ヲ

業トセリ。

物品ノ販賣ハ現金ヲ以テシ決シテ掛賣ヲ許サズ。是レ組合財務ノ基礎ヲ鞏固ニスル爲ニ必要ノ事タリ然ルニ近時各國消費組合ニシテ掛賣ヲナスモノヲ生シ次第ニ其數ヲ加ヘタリ。一九一〇年英國產業組合總會ノ報告ニ依レバ、組合ノ總數ニ就キ約七割一步ハ此方法ヲ執レリト云フ。此掛賣ノ方法ニ就テハ出資額ノ範圍或ハ一定ノ金額ヲ限度トセルモノアリ、或ハ特定ノ物品ノ種類ヲ限ルモノアリ、何レノ場合ニ於テ短期間ニ於テ之ヲ行フナリ。此方法タル組合ノ經營ニ蹉跌ヲ來タスノ危險アルヲ以テ、組合指導ノ地位ニアル社會改良家ハ之ヲ防止スルニ汲々タリ。組合ノ資本ハ組合員ノ出資ヲ以テ之ニ充テ、此出資額ハ各組合員ニ對シ均一ナルヲ以テ通例トス。是レ產業組合ニ共通ノ性質ニシテ各組合員ヲシテ對等ノ權利ヲ有セシムルノ必要ニ基クナリ。然ルニ近時各國ニ於テ組合ノ發展ニ伴ヒ資本充實ノ必要ヲ生シ延イテ持分ニ等差ヲ認ムルノ

方針漸次行ハル、ニ至レリ。

利益ノ計算ニ就テハ先ヅ出資ニ對シテ一定ノ利子ヲ支拂ヒ、又若干ノ準備金ヲ引去リ、其殘額ヲ以テ純益トナシ之ヲ組合員ニ配當スルモノトス。獨逸ニ於テハ出資ニ對シ利子ヲ付セザルヲ以テ原則トセリ、佛國ニ於テモ大體ニ於テ之ト其趣ヲ一ニセリ。

組合ニ依ツテハ組合員ノ救濟、教育、娛樂等ノ設備ノ費用ニ充ツル爲メ此純益ノ幾部ヲ割キテ積立金ヲ設ケ、其殘額ヲ以テ純益トシテ處分スルモノアリ。

純益ノ處分ニ就テハ各組合員ノ購買額ニ應ジテ配當ヲナスモノトス。例ヘバ百圓ノ購買ヲナセル者ハ五十圓ノ購買ヲナセル者ニ比シ倍額ノ配當ヲ受クルナリ。此配當ニ就テハ直接ニ之ヲ組合員ニ分配スルコトナク、各組合員ノ貯金トシテ組合ニ保管シ相當ノ利子ヲ附スルヲ以テ普通ノ事例トナス。是クテ組合ハ更ラニ營業ノ資金トシテ之ヲ利用スルノ便宜

ヲ有スルコト、ナル。白耳義ニ於テハ此配當ヲナスニ當リ金錢ヲ以テセズ商品券ヲ以テシ販賣額ヲ増加スルコトヲ圖レル組合アリ。消費組合ニシテ事業ノ盛大ナルモノニ在ツテハ工場ノ設備ヲナシ其ノ販賣スル所ノ物品ヲ製造スルモノ少シトセス。例ヘバ「ロッチデール」組合「リ」

「グ」組合等ノ如シ。消費組合ハ勞働者ノ組合ヨリ成リ其經營ハ勞働者ノ自營ニ委スルヲ以テ原則トナスモ、或ハ大工場ニ在ツテハ資本家ノ慈惠的施設トシテ經營セラル、ノ事例少ナシトセズ此場合ニハ資本家ハ組合ノ資本ノ大部分ヲ寄贈シ又事務ノ執行ニ就テハ工場事務員ヲシテ之ニ當ラシメ又其費用ノ幾分ヲ負擔シ勞働者ヲシテ只純益ノ配當ニ與ラシムルモノアリ。中央消費組合ノ組織ハ消費組合ノ沿革史上最モ重要ナル事實ナリトス。抑モ中央組合ノ目的ハ先ニ述ベタル如ク各地方ノ組合ノ爲ニ問屋ノ業ヲ營ムモノニシテ、各地方ノ組合ノ爲ニ物品ノ購入ヲナシ又必要ニ應ジ

製造ヲナスモノトス。其資金ハ各地方ノ組合ノ出資ヨリ成リ之ガ代表者ヲ以テ組織セラレタル委員會ハ其事務ヲ管理セリ。余ハ曾ツテ「マンチエスター」市ノ中央消費組合ヲ縦覽シケルガ其規模ノ宏大ナルコト實ニ驚クニ堪ヘタリ。組合事務所ハ之ヲ販賣部、製造部、運搬部、銀行部ノ四部ニ分テリ。販賣部ニハ商品陳列館アリテ此組合附屬ノ工場ニテ製造シタル物品、及ビ卸商又ハ生産者ヨリ買入レタル物品ノ見本ヲ陳列シ、製造部ニハ製粉工場「チヨコレット」ビスケット工場、石鹼工場、靴工場、毛織物工場ノ附屬セルアリ、運搬部ハ幾多ノ商船ヲ有シ大陸諸國及ビ米國等ニ就キ物品ノ購入ヲナセリ、銀行部ニハ百餘名ノ事務員アリテ金錢ノ出納ヲ掌リ宛然一大銀行ノ風アリ。此組合ノ規模ノ宏大ニシテ組織ノ整然タルコトハ資本家ノ企業ニ於テモ稀ニ見ル所ナリ。

余ハ茲ニ英國勞働局年報ニ依リ英國消費組合ノ統計ヲ示サン。

組合數

組合員數

出資額

販賣額

一八八五年	一、一四八	七四六、七七二	七、五〇八、九〇〇	一九、八七二、三四三
一八九〇年	一、二四〇	九六一、六一六	一〇、三一〇、七四三	二六、八八七、六三八
一八九五年	一、四二三	一、二七五、六五五	一四、一二四、一〇四	三三、九〇五、九六二
一九〇〇年	一、四三九	一、七〇七、〇一一	二〇、五六六、二八七	五〇、〇五三、五六七
一九〇五年	一、四五二	二、一五三、〇一五	二六、〇七六、六八二	六一、〇八六、九九一
一九一〇年	一、四二一	二、五四一、七三四	三一、六〇九、〇〇四	七一、八六一、三八三
一九一八年	一、三四二	三、八四六、五三一	五四、〇三九、二二五	一五五、一六一、九六三
一九一九年	一、三五七	四、一三一、四七七	六五、六四四、九六八	一九八、九三〇、四三七
一九二〇年	一、三七九	四、五〇四、八五二	七六、三七四、六九一	二五四、一五八、一四四

大陸諸國ニ於ル消費組合ハ其發達緩漫ニシテ英國ニ及バザルコト遠シ。只獨逸ニ於テハ近時長足ノ進歩ヲナシ現今ニ在ツテハ英國ノ壘ヲ摩スルニ至レリ。獨逸ニ於ル消費組合ノ統計左ノ如シ。

一八七〇年	組合數	組合員數
一八七五年	三五四	四五、七六一
一八八〇年	六一八	九八、〇五六
	六四五	九四、三六六

一八八五年	六八二	一一〇、一五〇
一八九〇年	九八四	二一五、四二〇
一九〇〇年	一、一一八	五七〇、八八〇
一九〇四年	一、八三三	八九七、〇九二
一九一四年	一、五三九	二、一七五、五三四
一九一五年	一、四九八	二、三二三、八九四
一九一六年	一、五四五	二、六四〇、六二八
一九一七年	一、五三一	二、九〇八、二二九
一九一八年	一、五六三	二、八六四、九二四
一九一九年	一、五八四	二、九四五、五二二

佛國ニ於ル消費組合ハ一九〇七年ニハ組合數二、〇〇九ニシテ組合員數六四一、〇四九ナリ一九一九年ニハ組合數一、九四四ニシテ組合員數七二四、四九一ナリ。

余ハ是ヨリ消費組合ノ社會改良上ノ效果ニ就テ説明センニ。凡ソ勞働者ノ地位ヲ改良スルガ爲ニハ必ラズ先ヅ貯蓄ノ美風ヲ獎勵セザルベカラ

消費組合ノ批評

ズ。然リ而シテ貯蓄ナルモノハ消費ノ節約ニ依ツテ生ズルモノナリ。然ルニ消費ノ節約ハ容易ニ行ハルベキモノニ非ラズ。殊ニ勞働ニ依ツテ生活セル者ニ在ツテハ此事ヤ最モ難シトス。然ルニ消費組合ノ組織ハ組合員ヲシテ消費ノ節約ヲナスコトナク從前ト同一ナル生計ノ程度ヲ保チ自然ニ貯蓄ヲナサシムルノ方法タリ。殊ニ消費ノ増加ニ伴ツテ貯蓄モ増加スルコト、ナル貯蓄方法ノ種類固ヨリ多シト雖モ其巧妙是ノ如キモノハ甚ダ稀ナリ。近時英國ノ勞働者ガ次第ニ其地位ヲ改良シ往々中等社會ト匹敵スル者アルニ至リシコトハ種々ノ原因アラン。去レド消費組合ハ其主要ナルモノナリ。

「ラッサル」派ノ社會主義者ハ生活ノ費用ハ賃銀ノ高低ヲ定ムル惟一ノ標準ナリトノ前提ニ基キ消費組合ヲ非難シテ曰ク消費組合ハ生活ノ費用ヲ減少スルノ結果ヲ生ズルナリ。從ツテ賃銀ノ低落ハ之ヨリ起ラザルヲ得ズ。去レバ消費組合ノ利益ヲ享クル者ハ勞働者ニ非ラズシテ寧ロ資本家

ナリ而シテ之ガ犠牲トナル者ハ商人ナリト。抑モ賃銀ニ關スル「ラッサル」ノ前提ハ完全ナルモノニ非ラズ只一部ノ真理ヲ含メルニ過ギズ。即チ生活ノ費用ガ賃銀ノ最低限度ヲ定ムルノ一原因タルコトハ固ヨリ言ヲ俟タザルモ、之ヲ以テ賃銀ノ高低ニ關スル惟一ノ標準トナスハ誤謬ノ見解タルヲ免レザルナリ。假令ヒ此前提ヲ是認スルモ此前提タル消費組合ト何等ノ關係ナキモノタリ。蓋シ消費組合ニシテ先ニ述べタル第一方法ニ依リ原價ヲ以テ物品ヲ賣捌クモノナラシメバ消費組合ハ多少生活ノ費用ヲ減少スルノ結果ヲ生ズルコトアランモ、第二方法ニ依レル消費組合ハ普通市價ニ依リ物品ヲ賣捌クガ故ニ生活ノ費用ハ之ガ爲ニ何等ノ影響ヲ被ラザレバナリ。之ヲ要スルニ「ラッサル」ノ消費組合ニ對スル非難ハ毫モ批評ノ價值ナキモノト云ハザルヲ得ズ。

或ハ消費組合ノ發達スルニ從ツテ小賣商ノ漸次減少スル事實ヲ見テ此種ノ組合ハ勞働者ヲ利スルト同時ニ小賣商ヲ害スルモノナルガ故ニ社

會政策上何ノ得ル所ナシト論ズル者アリ。此事實ヤ全然之ヲ否定スベキニ非ラズ。各國ニ於テ消費組合ノ起ル毎ニ小賣商ノ激烈ナル反對ヲ受クルヲ見テ以テ之ヲ知ルニ足ルベシ。然リト雖モ消費組合ノ發達ハ小賣商ヲ絶滅ニ歸セシメ商業ニ於ル經濟組織革新ノ結果ヲ生ズルモノニ非ラズ。社會主義者ニ在ツテハ或ハ此結果ヲ豫測スル者アラシム余ハ之ヲ否定スルニ躊躇セズ。願フニ消費組合ガ小賣商ノ地ヲ奪フハ其範圍極メテ狹隘ナリ。蓋シ消費組合ノ販賣スル物品ノ種類ハ先ニ述ブルガ如ク飲品、被服等ノ生活必需品ナル場合多キヲ以テ、此以外ノ物品ニ就テ小賣商ノ營業ノ餘地綽然タルモノアリ。且又消費組合ハ組合員ニノミ物品ヲ賣捌クヲ以テ通例トナセリ。或ハ組合員以外ノ者ニ向ツテ販賣ヲナスコトアルモ、組合員以外ノ者ハ之ニ依ツテ毫モ利益ヲ受クルニ非ラズ、物品ノ購買ヲナスニ當リ消費組合ニ依ルモ小賣商ニ依ルモ何等利害ノ關係ヲ異ニスルコトナキヲ以テ、此範圍ニ於テ小賣商ハ消費組合ト競争スルコ

ト敢テ難キニ非ラズ。加之ノミナラズ消費組合ハ主トシテ勞働者ヲ以テ組織セラル、ガ故ニ此他ノ社會階級ニ屬セル者ヲ得意先トナス場合ニハ小賣商ハ營業ニ於テ何等ノ影響ヲ被ルコトナシ。果シテ然ラバ消費組合ノ發達ノ爲ニ特定ノ範圍ニ於テ小賣商ノ利益ヲ害スルコトアラシムモ、之ガ爲ニ全タク小賣商ヲ絶滅ニ歸セシムルト云フハ杞憂ニ屬セリ。消費組合ハ其起原ニ於テ社會主義ノ首唱ニ依リタルコトハ英國ノ歴史之ヲ證明スルニ足ル。大陸諸國ニ於テモ之ト同一ノ事實アリ。現今各國消費組合ノ指導者ハ假令ヒ社會主義ニ依ラザルモ相互扶助ノ理想ヲ鼓吹セル者少ナシトセズ。然ルニ消費組合ガ漸次盛運ニ向ヒ、之ニ伴フ經濟上ノ實益多大ナルニ從ツテ、之ニ參加セル勞働者ハ組合本來ノ理想ヲ没却スルノミナラズ、徒ラニ營利ノ念ニ驅ラレ、配當ヲ増加スルニ汲々タルコト恰モ資木家ノ企業ト其趣ヲ一ニスルノ傾向ヲ生ジタリ。組合ノ經營方法ニ就キ、出資平等ノ原則ノ破レタルコト、掛賣ノ弊害ヲ醸シタルコト、組

合員外ノ者ニ販賣スル範圍ノ擴張セラレタルコト、舊組合員ト新組合員ノ間ニ權利ニ等差ヲ附スルコト、利益ノ配當ヲナスニ當リ購買額ヨリモ寧ロ出資ニ重ヲ置クコト等ノ事實ハ、悉ク此傾向ノ結果ナラザルハナシ。余ハ一九二一年英國ニ滞在シ消費組合ヲ歴訪シケルガ痛切ニ此趨勢ノ存在ヲ感シタル二三ノ事實アリ。茲ニ之ヲ摘録セン。

組合ガ營利ノ方針ニ趨クノ結果物品ノ買入ニ就キ投機ノ弊ニ陥ルコトハ從來屢々見ル所ナリ。最近倫敦ニ在ル「マンチエスター」中央組合支店ニ於テ、或物品ニ就キ投機ヲ試ミ鉅額ノ欠損ヲ生ジタリト云フ。之ニ關シテハ計算ノ結果ハ未ダ公表セラレザルモ、既ニ世間周知ノ事實タリ。

英國ニ於テ消費組合ノ祖先トシテ名聲ノ噴々タル「ロッチデール」組合ニ於テ、當局者ノ語ル所ニ依レバ、該組合ニ於テハ從來創立ノ精神ヲ尊重シ利益ノ幾部ヲ割キテ基金ノ積立ヲナシ、之ヲ救濟教育等ノ事業ニ投ズルコト、シタルガ、近時組合員ハ次第ニ營利ノ觀念ニ驅ラレ、只管ラ配當ノ多

カラシコトヲ望ミ、是等公益事業ノ如キハ之ヲ輕視シ、基金ノ繰入ハ成ルベク之ヲ減少スルニ至レリト云フ。

是等ノ事實ニ徴スルトキハ、英國ニ於ル消費組合ノ營利的傾向ハ疑ヲ容ルベキニ非ラズ。此組合ノ誕生地タル英國ニ於テ既ニ然リトセバ、大陸諸國ニ於テモ此事實ノ存在セルコトハ之ヲ推スニ難カラザルベシ。

願フニ消費組合ガ社會主義ニ依ル社會改造ノ手段トシテ有力ナルモノニ非ルモ、社會改良ノ實行方法トシテ其效果ノ多大ナリシコトハ先ニ述ブル所ノ如シ。而シテ社會改良ノ施設ハ營利ノ觀念ト相容レザル性質ヲ有シ、必ラズヤ相互扶助又ハ公共利益ノ理想ニ基カザルベカラズ。然ルニ各國消費組合ノ近狀是ノ如キコトハ實ニ遺憾ノ事タリ。各國ニ於テ組合指導ノ局ニ當ル者ニシテ、此運動ノ前途ニ對シ悲觀ノ觀念ヲ有シ此弊害ヲ匡正スル爲ニ種々ノ畫策ヲ立ル者少ナカラザルハ亦宜ナリト云フベシ。

第二 生産組合

六五四

生産組合ノ目的ハ労働者ヲシテ組合ヲ設ケ共同ニ生産事業ヲ營マシムルニ在リ。此組織ニ依ルトキハ労働者ハ勞力ヲ估賣シテ資本家ノ爲ニ生産ニ従事スルニ非ラズ、組合員タル労働者ハ自ラ資本家トシテ資本ヲ供出スルト同時ニ労働者トシテ勞力ヲ供出シ、由ツテ以テ純益ノ全部ニ就キ分配ヲ受クルモノタリ。

今各國ニ行ハル、所ノ生産組合ノ組織ヲ按ズルニ、若干ノ労働者團結シテ各自相當ノ出資ヲナシ、此資本ヲ以テ工場ノ設備、器械ノ装置、原料ノ購入等ノ費用ニ充テ、而シテ組合員ハ更ニ労働者トシテ製造ニ従事スルナリ。只業務多忙ニシテ組合員ノミヲ以テシテハ到底製品ノ需要ニ應ズル能ハザル場合ニ在ツテハ組合員以外ノ労働者ヲ僱使スルコトナキニ非ラズト雖モ、生産組合ノ労働者ハ組合員ニ限ルヲ以テ通則トセリ。損益計算ニ就テハ賣上高ヨリ生産費即チ原料、燃料等ノ代價、工場、機械等ノ償却

費、修繕費ヲ引去リ又組合員ノ出資ニ對シテ一定ノ利子ヲ支拂ヒ、組合員ノ勞力ニ對シテ一定ノ賃銀ヲ支拂ヒ、其殘額ヲ以テ純益トナス。此殘額ハ之ヲ準備金、基本金及ビ配當金ニ分チ準備金、基本金ハ之ヲ組合ニ積立テ而シテ配當金ハ各組合員ノ受クル所ノ賃銀額ニ應ジテ之ヲ組合員ニ分配スルモノトス。

歐洲ニ於テ生産組合ノ最モ盛ンニ行ハル、所ヲ佛國トシ英獨二國ハ之ニ次グリ。是レ他ナシ佛國工業ノ特徴ハ精巧工業ニ在リ、從ツテ其工業組織ハ英獨二國ニ比スレバ寧ロ小規模ナルモノ多キヲ以テ生産組合ノ發達ニ幾多ノ便宜ノ存セルモノアルニ依ル。加之ノミナラズ數十年來、該國ノ社會改良家ノ多數ハ頻リニ生産組合ノ必要ヲ唱道シ之ガ發達ニ助力セルノ事實モ亦之ガ一原因タラズンバアラズ。然レドモ之ヲ概言スレバ生産組合ノ運動ハ他ノ組合事業ニ比スレバ萎靡振ハザルコトハ各國ニ於テ均シク見ル所ノ事實ナリトス。

生産組合ノ目的ハ先ニ述ブルガ如ク労働者ヲシテ労働者タルト同時ニ資本家タラシムルニ在リ。是レ資本家ト労働者ノ區域畫然タル現時ノ經濟組織ニ於テ一新例ヲ開クモノト云フベシ。去レバ歐洲ニ於テ始メテ之ヲ唱道シ而シテ之ヲ實行シタル者ハ多クハ社會主義者ナリ。顧フニ社會主義者ノ生産組合ニ對スル計畫ハ二派ノ區別アリ、一ハ労働者ノ獨立計畫ニ成リ毫モ政府ノ保護ヲ受クルコトナキ生産組合ヲ主張セルモノニシテ、英國ニ「ローエン」アリ基督教社會主義ニ屬セル「ギングスレー」、「ヒューズ」、「ニール」等アリ佛國ニ「フリーエー」アリ。一ハ政府ノ補助管理ニ依リ之ヲ創設セントスルモノニシテ、佛國ニ「サンシモン」アリ「ブラン」ノ如キハ政府ノ補助ヲ以テ之ヲ創設スルノ議ヲ立テ一八四八年ノ革命政府ハ遂ニ之ヲ實行スルニ至レリ。獨逸ニテハ「ラツサル」派ノ社會黨ハ「ブラン」ノ學說ヲ祖述シ政府ノ保護ニ依リ生産組合ヲ組織スルコトヲ以テ其黨議ノ一ニ置ケリ。蓋シ是等ノ社會主義者ハ生産組合ニ於テ資本家ト労働者ノ區別

ハ全ク之ナキヲ見テ、此組織ニシテ漸次擴張セラレ普ネク各種ノ工業ニ及ビ廣ク全國ニ渉ルノ曉ニハ彼等ガ最終ノ理想トセル所ノ社會主義ノ新社會ハ目ヲ成立スベキコトヲ豫想シ、生産組合ノ發達ヲ以テ其理想ヲ遂行スル惟一ノ手段トナセルモノナルベシ。然リ而シテ生産組合ノ發達ヲ圖ルニ就キ彼等ガ政府ノ保護ヲ必要トスル所以ハ他ナシ労働者ノ獨立經營ニ成ル所ノ生産組合ハ資本家ノ事業ト競争スルコト能ハズ到底發展ノ望ナキヲ以テ政府ノ補助ヲ受ケ由ツテ以テ資本家ヲ絶滅ニ歸スルコトヲ圖ルモノニ外ナラズ。

是等ノ社會主義ノ計畫タル之ヲ「マークス」派ノ社會主義ニ比スルトキハ其理想トセル新社會ノ建設ニ就テハ其歸ヲ一ニセルモ、其手段ニ於テ異なるモノアリ、「マークス」派ニ在ツテハ立法ノ機關ニ於テ多數ヲ占ムルカ、然ラザレバ革命ノ力ニ依ツテ先ヅ政權ヲ掌握シ一舉シテ土地資本ノ國有、及ビ生産事業ノ官業ヲ實行スルニ在ルモ、是等ノ社會主義ハ生産組合

ノ發展ニ依リ漸次其理想ヲ實現セシムルニ在リ。去レバ「マークス」派ハ急進的ナリ此派ハ漸進的ナリ「マークス」派ハ上ヨリ下ニ向ヒ此派ハ下ヨリ上ニ向ツテ進ムモノト云フコトヲ得ベシ。

余ノ見ル所ニ依レバ生産組合ヲ以テ新社會建設ノ手段トナスハ論理ノ徹底ヲ欠クモノタリ抑モ現時ノ經濟組織ト新社會トノ區別ハ自由競争及ビ私有財産ナル二大原則ノ存在スルト否トニアリ。生産組合ナルモノハ果シテ此二大原則ヲ絶滅セシムルノ力ヲ有セルカ。余ハ其ノ然ラザルヲ斷言セント欲ス。生産組合ヲ組織セル所ノ勞働者ハ資本家ト勞働者ノ二種ノ資格ヲ有セルコトハ明白ナル事實タリ、然リト雖モ組合ノ資本ハ組合ノ共有ニ非ラズシテ各組合員ノ私有ニ屬セリ。組合ヲ解散スルトキハ組合員ノ私有財産トシテ分配セラルベキモノタリ。又組合ノ營業ヨリ生ズル純益ハ賃銀ニ應ジテ組合員ノ間ニ配當セラルハ、ヲ常トセリ。是レ明カニ組合員ノ私有財産ヲ認ムルモノニ非ラズシテ何ゾヤ。加之ノミナ

ラズ生産組合ノ發達スルニ從ツテ最早資本家ト勞働者ノ間ニ於テ分配ニ關スル自由競争ハ其跡ヲ絶タンモ、各組合ノ間ニ於テ生産ニ關スル自由競争ハ依然トシテ存在スベク此競争ノ結果トシテ貧富ノ懸隔ハ更ラニ新ナル形式ヲ以テ發生シ來ルヤ固ヨリ疑ヲ容レズ。或ハ社會主義者ハ各種組合ノ聯合ヲ作り由ツテ以テ自由競争ノ弊害ヲ防止スルコトヲ主張スルモ、此聯合タル同一ノ業務ヲ執ル所ノ組合ニ就テ之ヲ組織スルコトハ敢テ難シトセザルベシ、然レドモ業務ノ種類異ナルニ從ツテ此聯合ヲ組織スルコト能ハザルベク其間ニ自由競争ノ起ル亦已ムヲ得ザルコトタリ、例ヘバ製品ニ關スル組合ト原料ニ關スル組合トノ如シ。且夫レ歐洲各國ニ於ル生産組合ノ實例ニ徵スルトキハ生産組合ノ内部ニ勞働者ト資本家ノ畛域存在セル場合ナキニ非ラズ。蓋シ生産組合ノ工場ニ於テ勞働ニ従事スル者ハ悉ク組合員ナルヲ以テ通則トスルモ、事業閑散ナルトキハ組合員ノ全部ヲ擧ゲテ業ヲ執ラシムル能ハザルコトアリ。此場

合ニハ其所屬ノ組合ニ於テ業ヲ失ヒタル労働者ハ必ラズヤ他ノ工場ニ
趣キテ以テ衣食ノ途ヲ求メザルベカラズ。之ニ反シテ事業繁忙ニシテ組
合員ノミニテハ勢力ノ不足ヲ感ズル場合ニハ組合員以外ノ労働者ヲ備
使スルノ必要ヲ生ズルナリ。又労働者ハ終身同一ノ業務ヲ執ルモノニ非
ラズ種々ノ原因ニ基キテ其業ヲ轉ズルコトアルベシ、其子孫タル者常ニ
父祖ノ業ヲ襲ヒ世襲ノ家業ニ從事スルコトモ亦甚ダ稀ナリ。是等ノ場合
ニ於テ労働者ハ必ラズヤ其所屬ノ生産組合ヲ變更セザルベカラズ。是等
ノ事情ニ基キ各國ノ生産組合ニシテ其創立ノ趣意ニ背カズ、其本來ノ目
的ヲ失ハズシテ永久ニ存續セルモノ甚ダ少ナク、或ハ組合員ノ幾部ハ只
其持分ノミヲ有シ利益ノ配當ニ與リテ毫モ勞力ヲ供出セズ宛然株式會
社ノ株主タルガ如キ者アリ、或ハ組合員以外ノ労働者ノ數ハ多キニ失シ
此種ノ労働者ト組合ノ間ニ労働條件ニ關スル衝突頻リニ起ルコト資本
家ノ工場ト其趣ヲ異ニセザルモノアリ。由是觀之生産組合ノ内部ニ資本

社會政策ニ
於ル生産組
合ノ地位

家ト労働者ノ區別ナキハ其創立ノ際ニ限リ漸次此區別ノ復活スルコト
ヲ豫期セザルベカラズ。獨逸ニ於テ既ニ此傾向現レ多數ノ生産組合ハ
事實ニ於テ一種ノ株式組織ト同一トナルコトハ「クルムガ」等ノ説明ニ
依ツテ明瞭ナリトス。之ヲ要スルニ生産組合ノ起原ハ社會主義ニアルモ
其本來ノ性質ニ於テ自由競争ト私有財産ノ二大原則ニ抵觸スルモノニ
非ズ、從ツテ現時ノ經濟組織ニ在ツテ之ニ依リテ労働者ノ地位ヲ改良シ
福利ヲ増進スルコトヲ得ベク之ヲ以テ一種ノ社會改良主義ノ畫策トナ
ス亦何ノ不可ナルコトナカルベシ。
生産組合ノ性質是ノ如シトセバ其ノ社會改良策トシテノ效果ハ自ラ之
ヲ知ルニ難カラズ。抑モ雇傭關係ニ依リ資本家ノ爲ニスル労働ニ在ツテ
ハ、生産ヨリ生ズル純益ハ資本家ニ歸シ労働者ハ只一定ノ賃銀ヲ受クル
ニ過ギザルヲ常トス。然ルニ生産組合ニ在ツテハ組合員ニシテ労働ニ從
事スル者ハ普通ノ賃銀ヲ受クルト與ニ純益ノ配當ヲ受クルコトヲ得ル

ナリ、而シテ此純益ノ配當タル純益分配制ノ如クニ資本家ト労働者ノ間ニ分配セラル、ニ非ラズシテ其全額ヲ舉ゲテ労働者ノ間ニ分配セラル、モノトス。又組合員ニシテ労働ニ従事セズ只持分ヲ有セル者ト雖モ純益ノ配當ニ與ルコトヲ得ルナリ、而シテ組合員ニ非ラズシテ臨時ニ組合ニ備入レラレタル労働者ハ資本家ノ工場ニテ労働スル者ニ比スレバ労働者タル地位ハ敢テ異ナル所ナキモ、労働條件ニ關シテ大ニ寛待セラル、コトアルヤ言フ俟タズ。

今ヤ歐洲各國ニ於テ生産組合ノ運動ガ萎靡振ハザルコトハ先ニ之ヲ述ベタリ。是レ何ニ由ツテ然ルカ凡ソ生産組合ハ工場、機械ノ設備ノ爲ニ鉅額ノ固定資本ヲ要スル所ノ事業ニ於テ發達スベキモノニ非ラズ。奈何ントナレバ是ノ如キ鉅額ノ資本ヲ醸出スルコトハ到底労働者ノ力ノ及バザル所ナレバナリ。是ヲ以テ此種ノ組合ハ大工業ニ應用スルコト甚ダ難ク只特定ノ小工業ヲ以テ其應用ノ範圍トナスノミ。且夫レ生産組合ハ其

製品ノ價格ハ激變ニ罹リ易ク又其販路ニ就テ競争ノ劇甚ナル工業ニ於テ發達シ得ベキモノニ非ラズ。蓋シ物價ノ變動、販路ノ消長ヲ見テ之ニ應ズル適當ノ處置ヲナスコトハ多年商工業ノ經驗アル資本家ト雖モ尙ホ難シトスル所ナリ。況ンヤ是等ノ事柄ニ就テハ概シテ經驗知識ナキ労働者ニ於テヲヤ。去レバ生産組合ヲ應用スベキ工業ハ特定ノ範圍ニ限極セラレタリト云ハザルヲ得ズ。加之ノミナラズ生産組合ノ經營ノ爲ニ最モ必要ナルハ適當ナル管理者ヲ得ルコト、ス。之ヲ組合員中ニ求ムルハ甚ダ難シ或ハ外部ノ人ヲ備入レテ其任ニ當ラシムルノ方法アルモ、此種ノ管理者ハ労働者タル組合員ニ對シ其思想性行ノ合致セザルコトアリ、從ツテ事務ノ進行ヲ阻害スルノ憂アルヲ免レズ。何レノ場合ニ於テモ管理者ト組合員ノ間ニ純益ノ分配ニ關シテ多少ノ衝突ヲ起スコトハ屢々見ル所ナリ。又適當ナル管理者ヲ有セル所ノ組合ニ在テモ生産組合ノ性質トシテ營業ニ關シテ組合員ト協議シ多數ノ意思ニ依ツテ處決セザルベ

カラザルガ故ニ機ニ臨ミ變ニ應ジ專決果斷ノ處分ヲナスコト能ハズ、靈妙ナル手腕ヲ有セル管理者ト雖モ之ヲ奈何シトモスル能ハザル場合少ナシトセズ。且夫レ生産組合ノ事業ニシテ一朝否運ニ向ヒ鉅額ノ損失ヲ醸セルトキニ際シ損失ノ填補ヲナスノ方法ヲ設クルコト甚ダ難シ、奈何ントナレバ組合員ハ悉ク恒産ナキ勞働者ナルヲ以テ持分以外ニ臨時ノ出資ヲナスコト能ハザレバナリ。或ハ準備金ノ制ヲ設ケ之ニ備フルモノアルモ組合員ハ純益アルトキハ成ルベク其配當ヲ多クスルコトヲ務メ充分ナル準備金ヲ積立ツルコト能ハザルハ勞働者ノ地位トシテ已ムヲ得ザルナリ。此場合ニ於テ生産組合ハ終ニ破産ノ悲境ニ陥ラザルヲ得ズ之ヲ要スルニ生産組合ハ各種ノ社會改良策中其經營最モ困難ナルモノタリ。今ニ至ツテ此種ノ畫策ガ盛運ニ向ハザルハ亦已ムヲ得ザルコトタリ。

勞働者ト産業組合ノ關係ニ於テ余ハ特ニ消費組合及ビ生産組合ニ就テ

説明ヲ試ミタリ、此以外ノ産業組合ニシテ勞働者ガ由ツテ以テ其福利ヲ増進シ其地位ヲ改良スルニ足ルモノナキニ非ラズ。例ヘバ信用組合等ノ如シ。然レドモ是等ノ組合ハ多クハ小工業者ノ經營ニ係リ勞働者ニ依ツテ組織セラレタルモノハ各國ニ於テ其實例甚ダ少ナキヲ以テ茲ニ之ニ論及セザルナリ。

明治四十年三月八日初版印刷
 大正六十年十二月十一日增訂五版印刷
 大正六十年十二月五日增訂五版發行
 大正十三年十一月十五日增訂改版第七版印刷
 大正十三年十一月十八日增訂改版第七版發行

禁漢譯
 著作權
 所有

發行所

東京市神田區一ツ橋通町五番地
 電話四三三七〇番
 東京市本郷區森川町一番地

有終閣

著者

桑田熊藏

發行者

江草重忠

印刷者

松澤珏三

增訂改版工業經濟論奧付
 假製金四圓八拾錢
 本製金五圓五拾錢

印刷所東京市神田區一ツ橋通町五番地
 電話四三三七〇番
 東京市本郷區森川町一番地

桑田博士著述目錄

增訂 工業經濟論 全

定價
內金五圓五拾錢
地金十八錢

增訂 歐洲勞働問題の大勢 全

定價
內金壹圓七拾錢
地金十二錢

歐洲最近の社會問題 全

定價
內金貳圓七拾錢
地金十八錢

歐洲戰後の社會運動 全

定價
內金四十八錢
地金

40
849

終